

愛川地区まちづくり協議会のお花見訪問

平成29年4月8日



4月8日（土）愛川地区まちづくり協議会主催のお花見イベントが横須賀水道半原水源地跡地で開催されると聞き、訪問しました。

会場で行われたミニコンサートにサポセン登録団体「かえるの学校」の子どもたちが出演し、合唱する予定でしたが、あいにくの天候により、歌声を披露することはできませんでした。

なお、さくらが咲きほこるステージでは、やくばーず（町の職員）による合唱、全国2位の実力者によるハーモニカ演奏、かっぽれなどの芸能が披露され、会場にお集まりの方々も立ち止まり歌に踊りに演技を楽しんでいました。コンサートは「あいちゃん音頭」で幕を閉じました。

主催者によると、来場者は関係者を含め約200名以上（パンフレット配布150名）、雨にもかかわらず多くの方が訪れており、アンケートでは「良かった」という感想や、「来年もまた来たい」といった意見も寄せられたとのことです。



横須賀水道半原水源地跡地は、普段は構内に入ることのできない施設ですが、今回、お花見イベントの開催に併せ、特別に構内への立ち入りと散策ができました。

横須賀水道半原系統は、日露戦争後、海軍の軍備拡張に伴い、相模川の支流中津川に、新しい水源を求め、明治45年に工事に着手し、大正10年に完成したものです。中津川から取り入れた水は、約500m離れた半原水源地の沈殿池で沈殿後、内径500mmの鉄管で横須賀市逸見浄水場まで送られていましたが、水需要の減少、施設の老朽化により、平成19年度からの取水休止を経て、平成27年2月28日をもって廃止となったものです。

大正から平成まで、愛川町と横須賀市との間には、時代と距離を超え、水で結ばれた歴史がありました。